容器の取り扱い方法

検体の採取・取り扱い方法

血　液

［採血時間］　一般的に早朝安静空腹時(緊急性や指定条件を除き)を原則としています。

［検体採取］

◯血液　所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和させ、特に指定が無い場合、室温および冷蔵保存の場合はこのままで、凍結保存の場合は提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。

◯血清　必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、採血後室温に静置させ、凝固を確認後、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の保存条件をご参照ください。

◯血漿　必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和し、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
採取方法および保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の備考および保存条件、容器の取り扱い方法をご参照ください。
容器の規定採血量より少ない場合、項目によってはデータに影響を及ぼすことがあります。必ず指定容量を採取してください。

［注意事項］

◯真空採血にあたり
容器の規定採血量より少ない場合、容器内部が陰圧状態のままとなり溶血を引き起こす原因となります。
必ず、指定容量を採取してください。

◯シリンジ採血にあたり
シリンジから注射針を外し、採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入してください。

◯溶血を避けるにあたり
採血時に無理な圧力や泡立ちを避けてください。
充分に乾燥した採血容器を用いてください。
物理的刺激(極度の高温や低温、振動等)を避けてください。

尿

［部分尿］

採尿容器に尿を採取して、必要量を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
採尿時間を指定している検査項目もありますので、各検査項目の備考および容器の取り扱い方法をご参照ください。

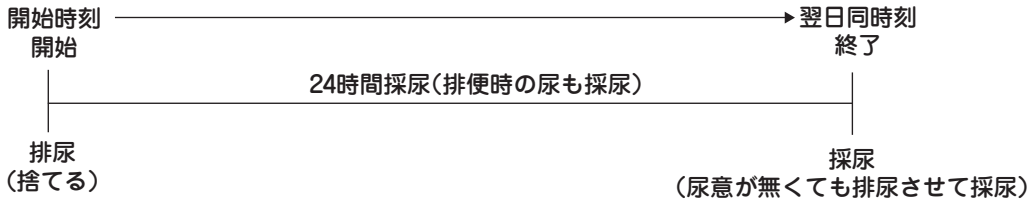
［24時間蓄尿］

蓄尿開始時に完全に排尿させ(捨てる)、それ以降の翌日同時刻までに排尿した尿の全てを蓄尿容器に採尿します。
蓄尿の間は、蓄尿容器に蓋をして冷暗所にて保存してください。
蓄尿終了後、蓄尿量を測定し、よく混和させ必要量を提出容器に移し蓄尿時間と蓄尿量を記入のうえ、指定の保存条件にてご提出ください。

◯酸性蓄尿
検査項目により、防腐・安定化等を目的に当社では、下記の蓄尿時に尿を酸性化する方法を採用しております。
ただし、これらの方法にて酸性化した尿検体ではデータに影響がある検査項目もありますので、ご依頼いただく各検査項目の備考を必ずご参照ください。

1.防腐剤を使用する方法
蓄尿量にかかわらず、専用防腐剤(錠剤と顆粒)全てを蓄尿容器にいれて蓄尿します。

2.塩酸を使用する方法
規定量の6Nの塩酸を蓄尿容器にいれて蓄尿します。(添加する詳細な規定量や注意事項は各検査項目の備考をご参照ください。)



凝固検査用検体のご提出方法

（凝固検査検体取扱いに関するコンセンサスより抜粋）

[採血管]

・容器の素材は、プラスチック製もしくはシリコン処理済みガラス製を使用する
・抗凝固剤には、0.105 ～ 0.109M(3.13 ～ 3.2%)クエン酸ナトリウム溶液を使用する
・クエン酸ナトリウム溶液と血液の比率は1:9とし、許容採血量は公称採血量±10%までとする
・患者のヘマトクリット値(Ht)が55%以上の場合はクエン酸ナトリウム溶液を調整する

[採血]

JCCLSの標準採血法ガイドラインGP4-A3に従う
・真空採血、注射器採血のいずれの組み合わせも使用可とする
　○採血針を用いた真空採血：1番目に凝固検査用採血管もしくは血清用採血管で採血する
　○翼状針を用いた真空採血：1番目にダミーの採血管もしくは他の検査用採血管で採血後、凝固検査用採血管で採血する
　○注射器採血：1番目に凝固検査用採血管に血液を分注する
・最低限の血流うっ滞(駆血帯処理)で清潔に穿刺する
・個別の状況に応じて対応することも可能とするため、21 ～ 23Gの注射針あるいは翼状針を使用する
・ヘパリンが混在する静脈ラインは使用不可である
・正確な血液量が採血管に流入したことを確認し、血液と抗凝固剤は速やかに5回程度泡立たぬよう転倒混和する

[遠心分離]

・遠心分離の温度設定は室温(18 ～ 25℃)にコントロールする
・平均遠心重力は1500×gで最低15分間、または2000×gで最低10分間の遠心分離処理を推奨する
・血小板の混入は測定結果に影響するため、残存血小板数を1万/μL未満になるようバフィーコートから最低5mm離れた上清を使用する

[凝固検体の確認]

採血困難な患者を中心に検査室到着時にすでに凝結が確認できる検体があり、遠心前に凝結を視認した場合は、再採血による検査続行か検査中止の確認を臨床側と相談する。

[補足]

CLSI Approved guideline 5th ed H21-A5では、Vascular access device(VAD)からの採血では、エアリークが無いことを確認し、可能な限りヘパリンフラッシュを避け、ヘパリンの混入あるいは希釈を避けることが明記されている。具体的にはまず生食5mLでフラッシュ、続いて5mLあるいはVADのdead spaceの6倍容量の血液を廃棄したのち検体を採取する。生食ロック(cap-off intravenous port)からの採血ではカテーテルと延長セット(extension set)dead spaceの2倍量を廃棄することが明記されている。

〈参考〉

1.日本検査血液学会標準化委員会凝固検査標準化ワーキンググループ
凝固検査検体取扱いに関するコンセンサス　日本検査血液学会雑誌　17, 149-168, 2016.
2.Ieko M et al：expert consensus regarding standardization of sample preparation for clotting time assays. Int J Hematol 112; 614-620, 2020

専用容器について

各頁掲載の専用容器は当社にて準備してございますので最寄りの営業所・営業拠点までお申し付けください。
なお、有効期間につきましては目安とお考えください。

分割販売について

当社は、お客様からの指示に基づき、容器の被包等を開き、小包装単位で販売(分割販売)を行う場合があります。この場合、お客様には以下の事項をご承諾いただくものとします。
①分割販売の対象となる容器について、その製造者が開示または能書に記載している有効期限内の品質保証が担保されない場合があること。
②分割販売の対象となる容器は、その受領後速やかに使用する必要があること。
③分割販売された容器について、当社は法律上の契約不適合責任を負わないこと。

ラベル貼付済み容器の取り扱いについて

当社は、お客様からの指示のもと、容器に所定のラベルを貼り付ける場合があります。この場合、容器の販売に関する契約・発注書等の記載にかかわらず、ラベル貼付の対象となる容器の所有権は、お客様から容器のご発注を頂いた時点でお客様に移転するものとします。

容器の取り扱い方法

容　器　形　態
A00 旧容器記号 X 貯蔵方法　室温 ポリスピッツ

容　器　形　態
ARR 旧容器記号 r 貯蔵方法　室温   滅菌ポリスピッツ

容　器　形　態
ASS 旧容器記号 i 貯蔵方法　室温   遮光ポリスピッツ

容　器　形　態
AZZ 旧容器記号 Z 酸洗浄済みのポリスピッツ 貯蔵方法　室温   金属検査

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
F00 旧容器記号 U 	糞便容器 貯蔵方法 室温	アデノウイルス DNA 定性	糞便 500mg		凍結	糞便500mgを左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ノロウイルス抗原	糞便 各小指先大		凍結	糞便の中央部より0.5g(小指先大)を左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。
		ノロウイルスRNA 定性			凍結	
		便中 カルプロテクチン	糞便 1g		凍結	糞便1g(拇指頭大)を左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。
		消化状態	糞便 拇指頭大		冷蔵	糞便1g(拇指頭大)を左図の容器に入れ、冷蔵保存してください。
		赤痢アメーバDNA 定性	糞便 0.5g		凍結	糞便の中央部より0.5g(小指先大)を左図の容器に入れ、速やかに凍結保存してください。

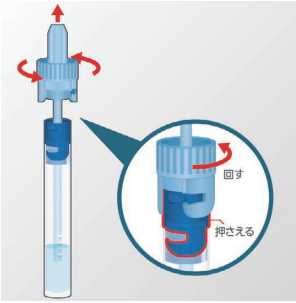
容器形態	検査項目	保存	採取方法
F20 旧容器記号 d4 便中ヘリコバクターピロリ抗原専用容器 内　　容　ほう酸1mL 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年	便中ヘリコバクター ピロリ抗原	冷蔵	1.(準備)容器の白ラベルを途中まではがし氏名・日付等を記入し、また巻いてください。ピンクの採便棒を回して引き抜いてください。 2.(便をとる)採便棒先端の溝すべてが便でうまるように、便の表面をこすりとってください。 3.(便をとったあと)採便棒を容器にもどして根元までしっかりねじ込んでください。再び開けないでください。 4.(保管上の注意)添付のビニール袋に入れて提出まで冷暗所に保管してください。採便後は、すみやかに提出してください。 (注)出来るだけ新しい便を提出してください。 (注)採便容器の緑キャップは、絶対にはずしたり、ゆるめたりしないでください。

容器の取り扱い方法

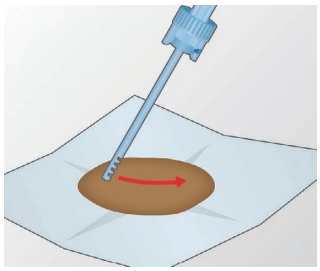
容器形態	検査項目	保存
F30 旧容器記号 d9	便中カルプロテクチン〔FEIA〕	凍結

内容
トリス緩衝液
BSA
アジ化ナトリウム
（0.1%以下）
貯蔵方法 冷蔵
有効期間　製造から 24 ヵ月

採取方法

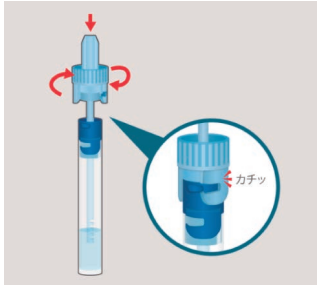


1.キャップの青色部分を押さえながら、その上の水色部分を左に回し、スティックを引き抜きます。



2.スティック先端の4つの溝が、充分に埋まるように便をこすり取ります。

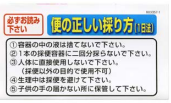
3.スティックの先端についた便をトイレットペーパー等で取り除きます。



4.スティックを容器に差し込み、キャップの水色部分が青色部分にカチッとはまるまで右に回します。

●注意事項
容器中の保存液が、目や口に入ったり皮膚に付着したりしないようご注意ください。誤って付着した場合は水で充分に洗い流してください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法
F80 旧容器記号 d8	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	冷蔵	●採取方法 1.キャップを回してスティックを取り出し、便の表面をまんべんなくこすり採ります。 2.1回だけ差し込み、キャップをしっかり締めます。 3.袋に入れ冷蔵保存し、ご提出ください。 ●注意事項 1.容器の中の保存液は捨てないでください。 2.便は溝が埋まるくらい採ります。採りすぎ、少なすぎにご注意ください。 採便時の食事制限はありません。
	便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕		
	便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕		



内　　容　保存液
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
H00 旧容器記号 H 	保存液入り (容器容量5mL) 内　容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。(凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。)	白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)CD45ゲーティング (造血器悪性腫瘍細胞検査)	骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0	冷蔵	指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		多発性骨髄腫解析検査 CD38マルチ解析 (造血器悪性腫瘍細胞検査)				
		染色体 G-Banding				骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		染色体SKY (血液疾患)				
		TCF3-PBX1 t(1;19)転座				
		CKS1B 1q21増幅				
		ALK 2p23転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 (保存液加) 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
			骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		GATA2-MECOM inv(3)逆位, t(3;3)転座				
		BCL6 3q27転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 (保存液加) 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		IGH-FGFR3 t(4;14)転座	骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		FIP1L1-PDGFRA del(4)長腕欠失 (4q12欠失)				
		CSF1R del(5) 長腕欠失				
		EGR1 del(5)長腕欠失				
		PDGFRB 5q32転座				
		D7S486 del(7)長腕欠失/ 7染色体(7モノソミー)				
		血液疾患染色体 8染色体				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
H00 旧容器記号 H 	保存液入り （容器容量5mL） 内　容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。（凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。）	MYC 8q24転座	骨髄液 1.0	骨髄液 （保存液加） 1.0	冷蔵	骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
			リンパ節 各5×5×5mm	リンパ節 （保存液加） 各5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		IGH-MYC t(8;14)転座	骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		RUNX1-RUNX1T1 (AML1-MTG8) t(8;21)転座				
		FGFR1 8p11.2転座				
		BCR-ABL1 t(9;22)転座				
		KMT2A(MLL) 11q23.3転座				
		IGH-CCND1 (IGH-BCL1) t(11;14)転座	リンパ節 5×5×5mm	リンパ節 （保存液加） 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
			骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		NUP98 11p15転座				
		BIRC3-MALT1 (API2-MALT1) t(11;18)転座	リンパ節 5×5×5mm	リンパ節 （保存液加） 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		ATM del(11)長腕欠失	骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		血液疾患染色体 12染色体				
		ETV6-RUNX1 (TEL-AML1) t(12;21)転座				
		D13S319 del(13)長腕欠失				
		IGH-BCL2 t(14;18)転座	リンパ節 5×5×5mm	リンパ節 （保存液加） 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		IGH-MAF t(14;16)転座	骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		PML-RARA t(15;17)転座				
		CBFB inv(16)逆位、 t(16;16)転座				骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		TP53 del(17)短腕欠失				

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
H00 旧容器記号 H 	保存液入り (容器容量5mL) 内　容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。(凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。)	MALT1 18q21転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 (保存液加) 5×5×5mm	冷蔵	リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。
			骨髄液 1.0	骨髄液 (保存液加) 1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。
		BCL2 18q21転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 (保存液加) 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
			骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		del(20)長腕欠失				
		血液疾患染色体 X染色体				
		血液疾患染色体 Y染色体				
		異性間BMT(骨髄移植) (X,Y染色体)				
		del(1)短腕欠失	組織 各5×5× 5mm	組織 (保存液加) 各5×5×5mm		組織5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		MYCN 2p24増幅				
			骨髄液 1.0	骨髄液 (保存液加) 1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		del(19)長腕欠失	組織 各5×5× 5mm	組織 (保存液加) 各5×5×5mm		組織5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		EWSR1 22q12転座				
			骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		FLT3/ITD 変異解析				
		FLT3変異 解析ITD/TKD				左図の容器に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		NPM1変異解析				
		KIT シーケンス解析(白血病)				
		白血病キメラ スクリーニング(定量)				指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
H00 旧容器記号 H 	保存液入り （容器容量5mL） 内　容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。（凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。）	WT1 mRNA定量	骨髄液 各1.0	骨髄液 （保存液加） 各1.0	冷蔵	骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		Major BCR-ABL1 mRNA定量				
		Major BCR-ABL1 mRNA(%)				
		Major BCR-ABL1 mRNA定性				
		Major BCR-ABL1 ABL1変異解析				
		minor BCR-ABL1 mRNA(%)				
		minor BCR-ABL1 mRNA定量				
		minor BCR-ABL1 mRNA定性				
		micro BCR-ABL1 mRNA定性				
		minor BCR-ABL1 ABL1変異解析				
		TCF3-PBX1 mRNA定量				
		TCF3-PBX1 mRNA定性				
		PML-RARA mRNA定量				
		PML-RARA mRNA定性				
		CBFB-MYH11 mRNA定量				
		CBFB-MYH11 mRNA定性				
		RUNX1-RUNX1T1 mRNA定量				
		RUNX1-RUNX1T1 mRNA定性				
		RUNX1-MECOM mRNA定性				
		ETV6-RUNX1 mRNA定量				
		ETV6-RUNX1 mRNA定性				
		KMT2A-AFF1 mRNA定量				
		KMT2A-AFF1 mRNA定性				
		KMT2A-AFDN mRNA定量				
		KMT2A-AFDN mRNA定性				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
H00 旧容器記号 H 	保存液入り （容器容量5mL） 内　　容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。（凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。）	KMT2A-MLLT3 mRNA定量	骨髄液 各1.0	骨髄液（保存液加）各1.0	冷蔵	骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。
		KMT2A-MLLT3 mRNA定性				
		KMT2A-MLLT1 mRNA定量				
		KMT2A-MLLT1 mRNA定性				
		NUP98-HOXA9 mRNA定量				
		STIL-TAL1 mRNA定量				
		DEK-NUP214 mRNA定量				
		DEK-NUP214 mRNA定性				
		T細胞レセプターβ鎖Cβ1再構成				
		T細胞レセプターβ鎖Jβ1再構成				
		T細胞レセプターβ鎖Jβ2再構成				
		T細胞レセプターγ鎖Jγ再構成				
		T細胞レセプターδ鎖Jδ1再構成				
		免疫グロブリンH鎖JH再構成				
		免疫グロブリンH鎖Cμ再構成				
		免疫グロブリンL鎖Jκ再構成				
		免疫グロブリンL鎖Cκ再構成				
		免疫グロブリンL鎖Cλ再構成				
		キメリズム解析移植前レシピエント〔PCR〕				指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		キメリズム解析移植前ドナー〔PCR〕	臍帯血 1.0	臍帯血（保存液加）1.0		
		キメリズム解析移植後〔PCR〕	骨髄液 1.0	骨髄液（保存液加）1.0		

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
H20 旧容器記号 H2 	保存液入り (容器容量10mL) 内　容 FBS PBS 硫酸カナマイシン 貯蔵方法 凍結 有効期間 製造から 1年	悪性リンパ腫解析検査 (MLA)CD45ゲーティング (造血器悪性腫瘍細胞検査) 悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析 (造血器悪性腫瘍細胞検査)	リンパ節 各5×5×5mm	リンパ節 (保存液加) 各5×5×5mm	冷蔵	リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
M30 旧容器記号 r3 	除蛋白液入り (内容量1mL) 内　容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	乳酸 ピルビン酸	血液 各1.0	速やかに遠心　除蛋白液 各0.4	冷蔵	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
M40 旧容器記号 r4 	除蛋白液入り (内容量4mL) 内　容 タングステン酸Na、 硫酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	アンモニア	血液 1.0	速やかに遠心　除蛋白液 3	凍結	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。

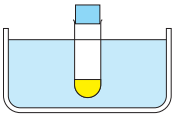
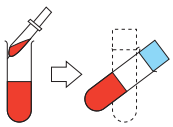
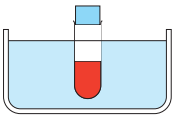
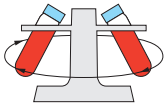
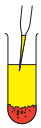
容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
M50 旧容器記号 r5 	除蛋白液入り (内容量0.5mL) 内　容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	遮光 ビタミンC (アスコルビン酸)	血清 0.5	除蛋白上清 0.5	凍結	採血後、直ちに血清分離し、正確に血清0.5mLを専用容器に加え、充分攪拌後、3000rpm5分間遠心分離し、その上清液を遮光ポリスピッツ(ASS)に移し替え、凍結してご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PAC 旧容器記号 B 	ACD-A保存液入り 内　容 ACD-A保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年 (アルミ包装 開封後1ヵ月)	PAIgG (血小板関連IgG)	血液 7.5	血液 (ACD-A液加) 7.5	冷蔵	指定の採血量を採血し、左図の容器に注入し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 (注)末梢血の血小板数が$3\times10^4/\mu L$以下の場合は、専用容器2本を使用し、必ず10mL以上採血してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PAP 旧容器記号 D 	EDTA-2Na+ アプロチニン入り (真空採血量3mL) 内　容 EDTA-2Na 3.75mg アプロチニン (1500単位) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	血液 各1.5~2.0	冷却遠心 血漿 0.5	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		膵グルカゴン		速やかに冷却遠心 血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離し、直ちに凍結保存してください。
		ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)		速やかに冷却遠心 血漿 0.5		安静時に指定の採取量を左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PAR 旧容器記号 B1 	ACD-A保存液入り 内　容 ACD-A保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年 (アルミ包装 開封後1ヵ月)	フローサイト クロスマッチ (リンパ球交差試験)	血液 7.5	血液 (ACD-A液加) 7.5	室温	指定の採血量を採血し、左図の容器に注入し、よく混和させ、室温保存してください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法		
PBT 旧容器記号 Q (真空採血禁止) 抗血小板剤入り 内　容 テオフィリン アデノシン ジピリダモール クエン酸ナトリウム クエン酸 貯蔵方法　遮光・冷蔵 有効期間　製造から 1年	β-トロンボグロブリン(β-TG)	凍結		あらかじめ専用容器(PBT)を冷却しておいてください。	砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。角氷は使用しないでください。
				できるだけ20ゲージ(19～21ゲージでも可)の針を用いたプラスティック注射器で血液3.0mLを採取してください。(採血にあたって、専用容器(PBT)を使用しての直接採血は絶対にしないでください。)	真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。また、駆血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。
				針を取って静かに専用容器(PBT)のフタを開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2～3回転倒混和してください。	指定の専用容器以外は使用しないでください。 専用容器は振とうさせないでください。
				専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。
			以上の操作を2分以内に行ってください。		
	血小板第4因子 (PF-4)			砕氷水に15～30分間放置後、採取血液を2000Gで30分間、2～4℃で遠心分離してください。(右表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。) ＊遠心機回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r：遠心機のローター半径(cm) n：1分間あたりの回転数(rpm)	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。 換　算　表 半径(cm) / 回転数(rpm) / 半径(cm) / 回転数(rpm) 10 / 4200 / 22 / 2800 12 / 3800 / 24 / 2700 14 / 3500 / 26 / 2600 16 / 3300 / 28 / 2500 18 / 3100 / 30 / 2400 20 / 3000
				上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで1項目につき0.3mL検体容器へ採取してください。 血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。 (血漿の全量採取は避けてください。) 検体は必ず凍結保存してください。 (1ヵ月安定)	

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PC2 旧容器記号 K 	3.2%クエン酸ナトリウム入り (真空採血量1.8mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年 (25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)	ヘパリン	血液 各1.8	速やかに遠心 血漿 0.3	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。) 〔注意事項〕 ＊トータルPAI-1につきましては以下の点にご注意ください。 1.採取容器は(PC2)を用い、必ず冷却遠心してください。室温遠心や容器(PC5)での採血はデータが高値となるため、避けてください。 2.速やかに分離できない場合は、氷水中に保存し、1時間以内に分離してください。
		活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)		速やかに遠心 血漿 各0.5		
		プロトロンビン時間(PT)				
		フィブリノーゲン(FIB)				
		可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)		速やかに遠心 血漿 0.4		
		フィブリンモノマー複合体定量		速やかに遠心 血漿 0.5		
		FDP定量		速やかに遠心 血漿 0.3		
		Dダイマー		速やかに遠心 血漿 0.5		
		プロトロンビンフラグメントF1+2		速やかに遠心 血漿 0.3		
		アンチトロンビンⅢ(ATⅢ)		速やかに遠心 血漿 各0.5		
		トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)				
		プラスミノーゲン				
		アンチプラスミン(α_2プラスミンインヒビター)				
		α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICテスト)		速やかに遠心 血漿 0.2		
		トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体)		速やかに冷却遠心 血漿 0.5		
		活凝性固検因査子 第Ⅷ因子(F8)〔合成基質法〕 第Ⅸ因子(F9)〔合成基質法〕		速やかに遠心 血漿 各0.3		

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PC2 旧容器記号 K 	3.2%クエン酸ナトリウム入り(真空採血量1.8mL) 内容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年 (25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)	凝固因子活性検査 第Ⅱ因子(F2)	血液各1.8	速やかに遠心 血漿各0.4	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。)
		第Ⅴ因子(F5)				
		第Ⅶ因子(F7)				
		第Ⅷ因子(F8)				
		第Ⅸ因子(F9)				
		第Ⅹ因子(F10)				
		第Ⅺ因子(F11)				
		第Ⅻ因子(F12)				
		第XIII因子(F13)				
		フォン・ウィルブランド因子抗原定量		速やかに遠心 血漿0.2		
		フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)		速やかに遠心 血漿0.5		
		フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析		速やかに遠心 血漿0.4		
		ADAMTS13-活性		速やかに遠心 血漿0.3		
		ADAMTS13インヒビター		速やかに遠心 血漿0.6		
		プロテインC(抗原量)		速やかに遠心 血漿0.3		
		プロテインC活性		速やかに遠心 血漿0.4		
		プロテインS(抗原量)		速やかに遠心 血漿0.2		
		プロテインS活性		速やかに遠心 血漿0.4		
		プロテインS(遊離型抗原量)		速やかに遠心 血漿0.2		
		トロンボモジュリン		速やかに遠心 血漿0.4		
		HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)		速やかに遠心 血漿0.5		3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)		速やかに遠心 血漿0.2		3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。)

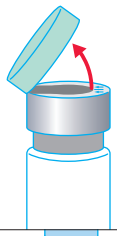
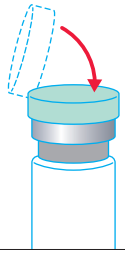
容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PC5 旧容器記号 L 	3.2%クエン酸ナトリウム入り (真空採血量4.5mL) 内　容 3.2%クエン酸Na 0.5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年 (25本入りプラスティックケース開封後1ヵ月)	遮光 ビタミンK分画	血液 各4.5	速やかに遠心 血漿 2.0	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず「遮光ポリスピッツ」(ASS)にてご提出ください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		凝固抑制因子検査 第Ⅷ(8)因子 第Ⅸ(9)因子		速やかに遠心 血漿 各1.0		3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		ループスアンチコアグラント				採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコートより5mm以上、上から血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。 ※遠心機回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r:遠心機のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm)

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PCD 旧容器記号 Pd 	EDTA及び細胞保存剤入り (真空採血量8.5mL) 内　容 EDTA及び細胞保存剤 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 18ヵ月	FoundationOne Liquid CDx がんゲノムプロファイル	血液 (EDTA及び細胞保存剤入り) 17.0 2本		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PCF 	Cell-Free DNA BCT CE (真空採血量10mL) 内　容 Cell-Free DNA BCT CE 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	RAS遺伝子変異解析〔BEAMing〕	血液 (Cell-Free DNA BCT CE) 10.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。
		Guardant360 CDxがん遺伝子パネル	血液 (Cell-Free DNA BCT CE) 20.0			

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PE2 旧容器記号 T3 	(真空採血量2mL) 内　容 ノボヘパリン 15IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	エンドトキシン定量	血液 (ノボヘパリン加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和してください。室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存してください。 β-D-グルカン以外との重複依頼は避けてください。
		β-D-グルカン				左図の容器に採血し、よく混和してください。速やかに冷蔵保存してください。 エンドトキシン定量以外との重複依頼は避けてください。

容器形態	検査項目		採取量(mL)	提出量(mL)	保存	採取方法	
PE4 旧容器記号 T4 	透析液中 エンドトキシン	A液	透析液 (安定化剤入) 各4.0		冷蔵	1 	PE4容器のカラーキャップを矢印の方向に引き上げ、アルミ部分を切らないように、(カラーキャップが完全に外に落ちないように)開け、ゴム栓部分を消毒用アルコール綿で拭きます。
		B液				2	無菌的に透析液を注射針付きのシリンジで採取し、PE4容器のゴム栓部に刺します。
		RO水					
		調整液				3 	注入が終わりましたら、カラーキャップを元通りに被せ、直ちに4回ほど容器を振り、安定化剤を均質に混ぜ、速やかに冷蔵保存し、提出してください。
(真空採取量：4.0mL) 内　容 安定化剤　0.1mL 貯蔵方法　冷蔵 有効期間 製造から 1年		その他					

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PF2 旧容器記号 E 	フッ化Na入り (真空採血量2mL) 内　容 フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	グルコース	血液 1.5～2.0	血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ヘモグロビンA1c (HbA1c) (NGSP)	血液(フッ化Na加) 2.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		グリコアルブミン	血液 2.0	血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り (真空採血量5mL) 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	γ-アミノ酪酸 (GABA)	血液 3.0	速やかに遠心　血漿 1.0	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、直ちに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		脂肪酸分画(24成分)	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.5	冷蔵	早朝空腹時に左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		脂肪酸分画(4成分)				
		極長鎖脂肪酸	血液 4.5~5.0	血漿 2.0	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
		リポ蛋白リパーゼ (LPL)	血液 1.5~2.0	速やかに冷却遠心　血漿 0.3		早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し、15分後に左図の容器に採血し低温(4℃)で遠心分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		ニコチン酸 (ナイアシン)	血液 (ヘパリン加) 1.5		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		鉛(Pb)	血液 (ヘパリン加) 3.0			
		クロム	血液 (ヘパリン加) 0.7			
		カドミウム	血液 (ヘパリン加) 0.5			
		マンガン	血液 (ヘパリン加) 0.7			
		エタノール	血液 (ヘパリン加) 1.0		凍結	左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、必ず凍結保存してください。
		ボリコナゾール	血液 各1.5~2.0	血漿 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		カルバマゼピン		血漿 各0.5		
		エトスクシミド				
		フェノバルビタール				
		フェニトイン				
		プリミドン		血漿 0.3		
		バルプロ酸		血漿 0.5		

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り （真空採血量5mL） 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	ガバペンチン	血液 各1.5～2.0	血漿 各0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ラモトリギン				
		トピラマート				
		レベチラセタム				
		ブリーバラセタム		速やかに遠心 血漿 0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、3時間以内に血漿分離してください。 3時間以上の場合、低値となる可能性があります。血漿は冷蔵保存してください。
		スチリペントール		血漿 各0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ペランパネル				
		ラコサミド				
		アミオダロン				
		ベプリジル				
		アプリンジン				
		ジソピラミド				
		プロカインアミド		血漿 0.4		
		プロプラノロール		血漿 各0.3		
		ピルシカイニド				
		シベンゾリン				
		ピルメノール	血液 3.0～4.0	血漿 1.3		
		キニジン	血液 各1.5～2.0	血漿 0.4		
		フレカイニド		血漿 0.3		
		テオフィリン		血漿 各0.5		
		メトトレキサート				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り （真空採血量5mL） 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	CCR4タンパク〔FCM〕	血液（ヘパリン加）各5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		結核菌特異的IFN-γ				左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存（18～25℃）してください。 検体は採取後、速やかにご提出ください。
		プレセプシン	血液 1.5～2.0	速やかに遠心 血漿 0.4	凍結	左図の容器に採血後、2～3回軽く転倒混和し、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 ボルテックスミキサー等による激しい撹拌、緩やかな長時間撹拌、凍結融解はデータが高値となるため避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。
		CD34定量	血液（ヘパリン加）5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 DMSO含有の場合は、凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		赤血球表面マーカー検査CD55	血液（ヘパリン加）各1.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		赤血球表面マーカー検査CD59				
		白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング（造血器悪性腫瘍細胞検査）	血液（ヘパリン加）各5.0			
		悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45ゲーティング（造血器悪性腫瘍細胞検査）				
		T細胞百分率 B細胞百分率	血液（ヘパリン加）3.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存（17～25℃）してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		B細胞表面免疫グロブリン（Sm-Ig） IgG	血液（ヘパリン加）各1.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存（17～25℃）してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 （3項目以上依頼の場合は3.0mL） 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		IgA				
		IgM				
		IgD				
		K				
		L				
		モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	血液（ヘパリン加）各3.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 （10項目以上の場合は血液5.0mL採血してください。） 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査				
		IgG-FcR^{+}・T細胞百分率	血液（ヘパリン加）1.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存（17～25℃）してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		血小板表面マーカー検査CD41	血液（ヘパリン加）各5.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		血小板表面マーカー検査CD42b				
		Th1/Th2（IFN-γ×IL-4/CD4）	血液（ヘパリン加）3.0			

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り （真空採血量5mL） 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	サイトメガロウイルス特異的CTL解析（HLA-A*0201）	血液（ヘパリン加）各5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		サイトメガロウイルス特異的CTL解析（HLA-A*2402）				
		先天異常染色体 G-Banding	血液（ヘパリン加）各3.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		先天異常染色体 C-Banding				
		先天異常染色体 Q-Banding				
		染色体SKY（先天異常）				
		脆弱X染色体（脆弱X症候群）				
		5染色体（ソトス症候群）				
		7染色体（ウイリアムス症候群）				
		先天異常染色体 13染色体				
		15染色体（プラダーウイリ症候群）				
		15染色体（アンジェルマン症候群）				
		17染色体（ミラーディカー症候群）				
		先天異常染色体 18染色体				
		先天異常染色体 21染色体				
		22染色体(22q11欠失) (CATCH22) conotruncal anomaly face症候群 velo-cardio-facial症候群 DiGeorge症候群				
		先天異常染色体 X染色体				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り （真空採血量5mL） 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	先天異常染色体 Y染色体	血液 （ヘパリン加） 各3.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		Y染色体（睾丸決定遺伝子SRY）				
		X,Y染色体（身長関連遺伝子SHOX）				
		血液疾患染色体 G-Banding	血液 （ヘパリン加） 各5.0			
		染色体SKY （血液疾患）				
		TCF3-PBX1 t(1;19)転座				
		CKS1B 1q21増幅				
		ALK 2p23転座				
		GATA2-MECOM inv(3)逆位, t(3;3)転座				
		BCL6 3q27転座				
		IGH-FGFR3 t(4;14)転座				
		FIP1L1-PDGFRA del(4) 長腕欠失(4q12欠失)				
		CSF1R del(5) 長腕欠失				
		EGR1 del(5)長腕欠失				
		PDGFRB 5q32転座				
		D7S486 del(7)長腕欠失/ 7染色体(7モノソミー)				
		血液疾患染色体 8染色体				
		MYC 8q24転座				
		IGH-MYC t(8;14)転座				
		RUNX1-RUNX1T1 (AML1-MTG8) t(8;21)転座				
		FGFR1 8p11.2転座				
		BCR-ABL1 t(9;22)転座				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH5 旧容器記号 G 	ヘパリン入り （真空採血量5mL） 内　容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	末梢血好中球 BCR-ABL1 t(9;22)転座	血液 （ヘパリン加） 各5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 血液は採取後、速やかにご提出ください。 採血後30時間以上経過した血液を使用した場合、細胞の形態的変化により、判定に影響がでる場合があるため検査できません。
		KMT2A(MLL) 11q23.3転座				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		IGH-CCND1 (IGH-BCL1) t(11;14)転座				
		NUP98 11p15転座				
		BIRC3-MALT1 (API2-MALT1) t(11;18)転座				
		ATM del(11)長腕欠失				
		血液疾患染色体 12染色体				
		ETV6-RUNX1 (TEL-AML1) t(12;21)転座				
		D13S319 del(13)長腕欠失				
		IGH-BCL2 t(14;18)転座				
		IGH-MAF t(14;16)転座				
		PML-RARA t(15;17)転座				
		CBFB inv(16)逆位、 t(16;16)転座				
		TP53 del(17)短腕欠失				
		MALT1 18q21転座				
		BCL2 18q21転座				
		del(20)長腕欠失				
		血液疾患染色体 X染色体				
		血液疾患染色体 Y染色体				
		異性間BMT(骨髄移植)（X,Y染色体）				
		FLT3変異解析 ITD/TKD	血液 （ヘパリン加） 5.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PH9 旧容器記号 I 	ヘパリン入り （真空採血量10mL） 内　容 ヘパリンNa 130IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	PHAによるリンパ球幼若化検査	血液 （ヘパリン加） 各5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存（17～25℃）してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 （2項目同時依頼の場合は8.0mL） 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		Con-Aによるリンパ球幼若化検査				
		薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）	1薬剤 血液 （ヘパリン加） 12.0			1薬剤につき指定の容器（2本）に採血し、よく混和させ、必ず室温保存してください。 1.1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。 2.1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。 3.目安として白血球数が3000/μL以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業員までお問い合わせください。 4.2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。 5.血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。錠剤（1錠）、カプセル（1カプセル）、粉末（1回投与量程度1包）、リキッドタイプの飲み薬（0.5mL程度）、注射薬（1バイアル【アンプル】） 皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。 その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業員までご連絡ください。 6.ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全て専用容器（PNK）に採血しご提出ください。検体は採取後、当日中にご提出ください。 7.「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条および「覚醒剤取締法」別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。 8.ご依頼の際は、麻薬、覚醒剤原料が含まれていないことをご確認いただき、依頼書などへご署名をお願いいたします。ご署名のない場合は、受領いたしかねます。
		MLC （リンパ球混合培養）	血液 （ヘパリン加） （受給者） 20.0 （提供者） 10.0 （非血縁者） 10.0			受給者（Recipient）血液20.0mL（2本）と提供者（Donor）血液10.0mL（1本）、非血縁者血液　10.0mL（1本）を左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 MLCはリンパ球を無菌状態で培養しますので、採取容器の開栓、検体の移し替えは避けてください。 容器のラベルに施設名、氏名を記入してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PHS 旧容器記号 G3 	ヘパリン入り (真空採血量4mL) 内　容 ヘパリンNa 83.6単位 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 18ヵ月 (アルミ包装 開封後1ヵ月)	遮光 コプロポルフィリン	血液 (ヘパリン加) 各1.5		冷蔵	左図の遮光容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 血液は必ず遮光容器にてご提出ください。
		遮光 ウロポルフィリン				
		遮光 プロトポルフィリン				

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PK2 旧容器記号 g 	EDTA-2K入り (真空採血量2mL) 内　容 EDTA-2K 3.8mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	末梢血液一般検査	血液 (EDTA-2K加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、直ちに5回以上軽く転倒混和させ、冷蔵保存してください。 溶血、凝固および凍結検体は測定できません。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		網状赤血球数				
		好酸球数				
		末梢血液像				
		NCC オンコパネルシステム				専用容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。検体は採取後、14日以内にご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PK5 PK7 5mL用 (PK5) 7mL用 (PK7)	EDTA-2K入り (真空採血量5mL または7mL) 内　容 EDTA-2K 9.5mgまたは 13.3mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	EGFR変異解析 v2.0(血漿)	血液 10.0～14.0	血漿 5.0	凍結	左図の採血管で提出検体量(血漿5mL)を考慮した充分量を採取し、採血後、8時間以内に必ず血漿分離してください。 分離後、直ちに滅菌ポリスピッツ(ARR) 2本に2.5mLずつの血漿を分取し、凍結保存してください。血漿分取する際には、白血球成分由来のゲノムDNAの混入を防ぐためデカンテーションを行わないでください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体の採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PKF 旧容器記号 g1 	EDTA-2K入り （真空採血量2mL） 内　容 EDTA-2K 3.6mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	シクロスポリン	血液 （EDTA-2K加） 各0.7		凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血液のまま凍結保存してください。 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。
		タクロリムス				
		エベロリムス	血液 （EDTA-2K加） 1.0			

容器形態	検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN2 PN5 旧容器記号 C 2mL用(PN2) 5mL用(PN5) EDTA-2Na入り(真空採血量2mLまたは5mL) 内容 EDTA-2Na 3.0mgまたは7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から2年	膵ホスホリパーゼA_2(膵PLA_2)	血液各1.5~2.0	冷却遠心 血漿0.3	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	アミノ酸分析(39種類)〔LC/MS〕		速やかに冷却遠心 血漿各0.5	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	アミノ酸分析(9種類)〔LC/MS〕				
	アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)〔LC/MS〕				
	血中総ホモシステイン		速やかに遠心 血漿0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、速やかに血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
	ルフィナミド		血漿0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
	ミコフェノール酸		血漿0.5		
	イマチニブ		血漿0.3		
	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)		速やかに冷却遠心 血漿0.5	凍結	早朝安静時に左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	副甲状腺ホルモン(Whole PTH)		血漿各0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
	コルチゾール			凍結	早朝安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は凍結保存してください。
	セロトニン	血液(EDTA-2Na加)1.0			左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、必ず凍結保存してください。
	アルドステロン〔CLEIA〕	血液各1.5~2.0	血漿各0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は凍結保存してください。
	レニン濃度(ARC)〔CLEIA〕				左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	レニン活性(PRA)〔EIA〕		冷却遠心 血漿0.7		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	アルドステロン〔CLEIA〕/レニン濃度比	血液各4.0	血漿1.0		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	アルドステロン〔CLEIA〕/レニン活性比		冷却遠心 血漿1.2		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	サイクリックAMP	血液各1.5~2.0	冷却遠心 血漿0.3		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)		速やかに遠心 血漿0.5		安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存にて6時間以内に血漿分離してください。血漿は速やかに凍結保存してください。
	APOA2アイソフォーム		血漿0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
	PIVKA-Ⅱ		血漿0.5		
	ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)		血漿0.4	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN2 PN5 旧容器記号 C 2mL用 (PN2) 5mL用 (PN5)	EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL) 内　容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	鳥特異的IgG抗体	血液 1.5～2.0	血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		ABO式 血液型	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		Rh(D因子)式 血液型				
		Rh-Hr式血液型				
		血液型不適合妊娠	血液 10.0～ 12.0 (別容器 に採血) と 血液 2.0	速やかに遠心 血清 4.0 と 血液 (EDTA-2Na加) 2.0	冷蔵 室温	血液2.0mLを左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存で速やかにご提出ください。 また、別容器に血液10.0～12.0mL採血し、速やかに血清分離し、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。
		直接クームス試験	血液 (EDTA-2Na加)1.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存で速やかにご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。
		不規則性抗体 (抗体同定・抗体価測定)	血液 10.0～ 15.0 (別容器 に採血) と 血液 2.0	速やかに遠心 血清 5.0 と 血液 (EDTA-2Na加) 2.0	冷蔵 室温	血液2.0mLを左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存で速やかにご提出ください。 また、別容器に血液10.0～15.0mL採血し、速やかに血清分離し、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。
		ペントラキシン3 (PTX3)	血液 各1.5～2.0	速やかに冷却遠心 血漿 0.3	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		IL-8 (インターロイキン-8)		血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		多発性骨髄腫 マルチパラメーターフローサイトメトリー (8color)	骨髄液 (EDTA-2Na加) 2.0		室温	骨髄液2.0mLを採取し、左図の容器(PN5もしくはPN2)に、よく混和させ、室温保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。
		FLT3/ITD 変異解析	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		NPM1変異解析				
		KIT シーケンス解析 (白血病)				
		JAK2V617F 遺伝子変異解析				
		MPN 遺伝子変異解析				
		RET遺伝子解析 (甲状腺髄様癌)				
		RET遺伝子 シングルサイト解析 (甲状腺髄様癌)				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PN2 PN5 旧容器記号 C 2mL用 （PN2） 5mL用 （PN5）	EDTA-2Na入り （真空採血量 2mLまたは5mL） 内　容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	SNRPN遺伝子解析 〔メチレーションPCR〕 （プラダー・ウィリ症候群 アンジェルマン症候群）	血液 （EDTA-2Na加） 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		PRRT2遺伝子解析 （発作性運動誘発性舞踏アテトーゼ）				
		TTR遺伝子解析 （家族性アミロイドーシス）				
		MECP2遺伝子解析 （レット症候群）				
		PrismGuide IRD パネル システム				左図の容器に採血後すぐにゆっくりと10回転倒混和し、冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		TACSTD2遺伝子解析 （角膜ジストロフィー）				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ジストロフィン遺伝子解析 （デュシェンヌ型筋ジストロフィー ベッカー型筋ジストロフィー）				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		フクチン遺伝子 DNA挿入 （福山型先天性 筋ジストロフィー）				
		脊髄小脳変性症 遺伝子解析				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		MEFV遺伝子解析 （家族性地中海熱）				
		SOD1遺伝子解析 （筋萎縮性側索硬化症）				
		HTT遺伝子CAG 反復配列解析 （ハンチントン病）				
		アンドロゲンレセプター 遺伝子CAG反復配列解析 （球脊髄性筋萎縮症）				
		Y染色体微小欠失 （AZF欠失）				
		UGT1A1 遺伝子多型解析				
		NUDT15 遺伝子codon 139 多型解析				

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN2 PN5 旧容器記号 C 2mL用 (PN2) 5mL用 (PN5)	EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL) 内　容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	HLA-A,B (血清対応型タイピング)	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 HLA検査2項目以上同時依頼の場合は血液2.0mLで検査可能です。 ただし、受給者の場合、化学療法などにより細胞数が減少し、DNAが回収できない場合がありますので細胞数2×10^6個を最低限としてご提出ください。白血球数(WBC)1000/μLを下回る受給者の場合は、血液2.0mL(PN2容器)を2本以上、または血液5.0mL(PN5容器)をご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HLA-A (DNAタイピング)				
		HLA-B (DNAタイピング)				
		HLA-C (DNAタイピング)				
		HLA-DR (血清対応型タイピング)				
		HLA-DRB1 (DNAタイピング)				
		HLA-DPB1 (DNAタイピング)				
		HLA-DQB1 (DNAタイピング)				
		キメリズム解析移植前ドナー〔PCR〕				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。必ず受給者、供給者のペアでご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN5 旧容器記号 C 	EDTA-2Na入り (真空採血量5mL) 内　容 EDTA-2Na 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	アデノウイルス DNA 定量	血液 5.0	血漿 0.7	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
			血液 (EDTA-2Na加) 5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		単純ヘルペス ウイルスDNA 定性	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0			
		水痘・帯状疱疹 ウイルスDNA 定性				
		サイトメガロウイルス pp65抗原(C7-HRP)	血液 (EDTA-2Na加) 3.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。採血後速やかにご提出ください。 採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。
		サイトメガロ ウイルスDNA 定性	血液 (EDTA-2Na加) 2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN5 旧容器記号 C 	EDTA-2Na入り (真空採血量5mL) 内　容 EDTA-2Na 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	EBウイルスDNA定量	血液(EDTA-2Na加)2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
			血液 5.0	血漿 2.0		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ヒトヘルペスウイルス6型DNA 定性	血液(EDTA-2Na加)各2.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ヒトヘルペスウイルス7型DNA 定性				
		高感度PNH型血球検査	血液(EDTA-2Na加)各5.0			必ず左図の容器で採血し、冷蔵保存にてご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。
		ZEB2遺伝子解析(モワット・ウィルソン症候群)				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		先天性QT延長症候群遺伝子解析				
		HLA DNAタイピング〔NGS-SBT法〕				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。ただし、受給者の場合、化学療法などにより細胞数が減少し、DNAが回収できない場合がありますので、白血球数(WBC)1000/μLを下回る受給者の場合は、血液5.0mL(PN5容器)を2本以上ご提出ください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		男性AIRS(認知機能評価あり)	血液 各5.0	速やかに冷却遠心 血漿 各0.5	凍結	1.EDTA-2Na入り採血チューブ(左図)にて血液約5mLを採取してください。 2.採血直後、血液を2～3回軽く転倒混和してください(ローラーでの混和は行わないでください)。 3.混和後直ちに(1分以内)採血チューブを氷水中(血液の液面まで氷水につかる状態)で冷却(15分以上、遠心操作まで冷却)してください。 4.採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離(4℃、3000回転、15分)または通常遠心分離(3000回転、15分、ローターが昇温してないこと)してください。 5.遠心後、直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し、分注してください。 6.分注後、血漿を4時間以内に凍結保存してください。
		女性AIRS(認知機能評価あり)				
		男性AIRS(認知機能評価なし)				
		女性AIRS(認知機能評価なし)				
		男性AICS(5種)				
		女性AICS(6種)				

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN7 旧容器記号 A 	EDTA-2Na入り (真空採血量7mL) 内　容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	抗利尿ホルモン(AVP)	血液 各4.0～5.0	速やかに 冷却遠心 血漿 各1.5	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		カテコールアミン3分画 A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン				
		L-ドーパ				
		ドーパミン総				
		HVA		血漿 各1.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		VMA				
		セロトニン		速やかに 冷却遠心 血漿 1.5	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で900rpm20分間(PRP)または1500rpm10分間(P)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
		5-HIAA		血漿 1.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
		単純ヘルペスウイルスDNA定量	血液 (EDTA-2Na加) 各5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		EBウイルスDNA(クロナリティ)	血液 (EDTA-2Na加) 7.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		ヒトヘルペスウイルス6型DNA定量	血液 (EDTA-2Na加) 5.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HTLV-1核酸検出定性	血液 (EDTA-2Na加) 各7.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存でご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HTLV-1プロウイルスDNA定性				
		HTLV-Ⅰ(ATLV)プロウイルスDNA(クロナリティ)				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
PN7 旧容器記号 A 	EDTA-2Na入り (真空採血量7mL) 内　容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	マイクロアレイ 染色体検査 (染色体構造変異解析)	血液 (EDTA-2Na加) 各7.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。
		白血病キメラ スクリーニング(定量)				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		WT1 mRNA定量				
		Major BCR-ABL1 mRNA(IS)				
		Major BCR-ABL1 mRNA(%)				
		Major BCR-ABL1 mRNA定性				
		Major BCR-ABL1 ABL1変異解析				
		minor BCR-ABL1 mRNA(%)				
		minor BCR-ABL1 mRNA定量				
		minor BCR-ABL1 mRNA定性				
		micro BCR-ABL1 mRNA定性				
		minor BCR-ABL1 ABL1変異解析				
		TCF3-PBX1 mRNA定量				
		TCF3-PBX1 mRNA定性				
		PML-RARA mRNA定量				
		PML-RARA mRNA定性				
		CBFB-MYH11 mRNA定量				
		CBFB-MYH11 mRNA定性				
		RUNX1-RUNX1T1 mRNA定量				
		RUNX1-RUNX1T1 mRNA定性				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PN7 旧容器記号 A 	EDTA-2Na入り （真空採血量7mL） 内　容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	RUNX1-MECOM mRNA定性	血液（EDTA-2Na加）各7.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		ETV6-RUNX1 mRNA定量				
		ETV6-RUNX1 mRNA定性				
		KMT2A-AFF1 mRNA定量				
		KMT2A-AFF1 mRNA定性				
		KMT2A-AFDN mRNA定量				
		KMT2A-AFDN mRNA定性				
		KMT2A-MLLT3 mRNA定量				
		KMT2A-MLLT3 mRNA定性				
		KMT2A-MLLT1 mRNA定量				
		KMT2A-MLLT1 mRNA定性				
		NUP98-HOXA9 mRNA定量				
		STIL-TAL1 mRNA定量				
		DEK-NUP214 mRNA定量				
		DEK-NUP214 mRNA定性				
		T細胞レセプターβ鎖Cβ1再構成				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
		T細胞レセプターβ鎖Jβ1再構成				
		T細胞レセプターβ鎖Jβ2再構成				
		T細胞レセプターγ鎖Jγ再構成				
		T細胞レセプターδ鎖Jδ1再構成				
		免疫グロブリンH鎖JH再構成				
		免疫グロブリンH鎖Cμ再構成				
		免疫グロブリンL鎖Jκ再構成				
		免疫グロブリンL鎖Cκ再構成				
		免疫グロブリンL鎖Cλ再構成				

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PN7 旧容器記号 A 	EDTA-2Na入り （真空採血量7mL） 内　容 EDTA-2Na 10.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	キメリズム解析移植前レシピエント〔PCR〕	血液 （EDTA-2Na加） 各7.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。必ず受給者、供給者のペアでご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		キメリズム解析移植後〔PCR〕				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PNK 旧容器記号 R 	保存液入り （真空採血量5mL） 内　容 保存液 0.7mL 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年 （アルミシート開封後1ヵ月）	NK細胞活性	血液 （保存液加） 5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ冷蔵保存してください。 なお、リンパ球の少ない患者さんは多めに採血してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PNM 旧容器記号 g2 	EDTA-2K入り （真空採血量10mL） 内　容 EDTA-2K 18mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	BRCA1/2遺伝子検査（乳癌）	血液（EDTA-2K加）各7.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		BRCA1/2遺伝子検査（卵巣癌）				
		BRCA1/2遺伝子検査（HBOC）				
		BRCA1/2遺伝子検査（膵癌）				
		BRCA1/2遺伝子検査（前立腺癌）				
		BRCA1/2遺伝子シングルサイト検査				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PNR 旧容器記号 g3 	EDTA-2Na入り （真空採血量4mL） 内　容 EDTA-2Na 6.75mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年6ヵ月	遮光 ビタミンB_1	血液（EDTA-2Na加）各0.5		凍結	左図の遮光容器に採血し、よく混和させ、凍結保存してください。 血液は必ず遮光容器にてご提出ください。
		遮光 ビタミンB_2				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
PSF 旧容器記号 P3 	EDTA－2K＋ 血漿分離剤入り （真空採血量5mL） 貯蔵方法 4～25℃ 有効期間 製造から 1年	サイトメガロウイルス核酸定量	血液 各5.0	血漿 各1.8	凍結	指定の採取量を左図の容器に採血後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HIV-1RNA定量				

容　器　形　態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	検体の取り扱い方法
S09 S06 9mL用（S09） 6mL用（S06）	分離剤入り （真空採血量 9mL又は6mL） 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	**生化学検査一般** **血清学的検査一般** **その他**	適量	適量	左図の容器に、検査項目に応じて必要量を採血した後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。 血液の凝固を確認後、遠心分離し容器A00（ポリスピッツ）に血清を分注しご提出ください。 検体量不足にならないようにご注意ください。 遠心分離は、2000Gで10分間遠心してください。 （下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示しています。） 換算表 半径(cm)／回転数(rpm)／半径(cm)／回転数(rpm) 10／4200／22／2800 12／3800／24／2700 14／3500／26／2600 16／3300／28／2500 18／3100／30／2400 20／3000／／

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
S3F S5F 旧容器記号 P1 3mL採血用 （S3F） 5mL採血用 （S5F）	凝固促進剤＋ 血清分離剤入り （真空採血量 3mLまたは5mL） 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	HBV DNA定量 （IU）	血液 5.0	血清 1.8	凍結	指定の採取量を左図の容器に採血後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後、遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		HCV RNA コアジェノタイプ	血液 3.0	血清 0.5		
		HCV RNA定量	血液 5.0	血清 1.8		

容　器　形　態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	検体の取り扱い方法
S9P S7P 10mL用 (S9P) 7mL用 (S7P)	分離剤なし (真空採血量 10mL又は7mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	**薬物検査 その他**	適量	適量	左図の容器に、検査項目に応じて必要量を採血した後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。 血液の凝固を確認後、遠心分離し容器A00(ポリスピッツ)に血清を分注しご提出ください。 遠心分離は、2000Gで10分間遠心してください。 (下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示しています。) 換算表 半径(cm) / 回転数(rpm) / 半径(cm) / 回転数(rpm) 10 / 4200 / 22 / 2800 12 / 3800 / 24 / 2700 14 / 3500 / 26 / 2600 16 / 3300 / 28 / 2500 18 / 3100 / 30 / 2400 20 / 3000

容　器　形　態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
SZZ 旧容器記号 e 	血清分離剤 凝固促進剤入り (真空採血量3mL) 内　　容 トロンビン ヘパリン中和剤 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年	**アルミニウム(Al)**	血液 2.5～3.0	血清 0.6	冷蔵	コンタミネーション防止のため、シャントから滴下または真空採血してください。 採血後は直ちに充分転倒混和し、遠心分離後そのまま冷蔵保存にてご提出ください。

容　器　形　態
U00 旧容器記号 Y　貯蔵方法　室温

尿用容器

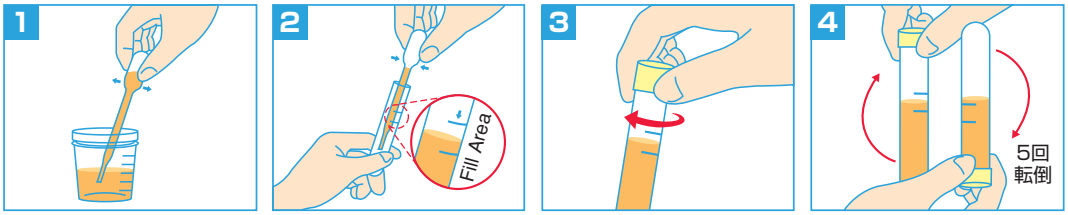
容器形態	検　査　項　目	保存
U10 旧容器記号 Y1	クラミジアトラコマティスDNA 淋菌DNA 淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定 腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出	室温

滅菌スポイト
滅菌カップ

●尿検体からの採取

最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取してください。

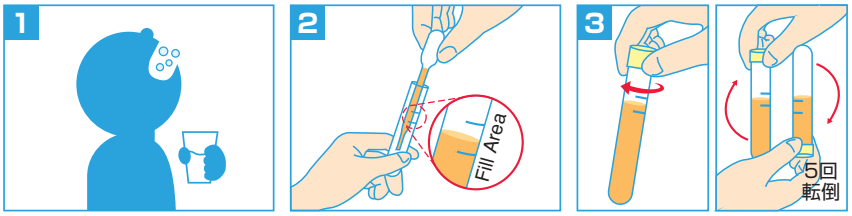
① 滅菌済みカップに初尿を採取し、滅菌済みスポイトを用いて初尿を専用容器に移します。
② 専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。
③ 専用容器のキャップをしっかりと閉めてください。
④ 専用容器を5回転倒混和して室温にて提出してください。



●うがい液検体からの採取

検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むこと等は避けてください。

① 滅菌生理食塩水をカップに15～20mL入れ口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよくうがいを行います。
② うがい液全量をコップに回収し、スポイトで専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように添加します。
③ 専用容器のキャップをしっかりと閉め、5回転倒混和して室温保存にて提出してください。
※ただし「腟トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出」はご依頼できません。



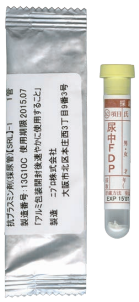
内　　容
　グアニジン塩酸塩
貯蔵方法　室温
有効期間
　製造から 1年

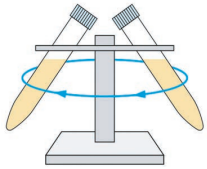
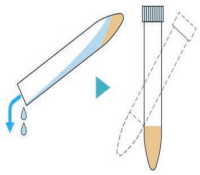
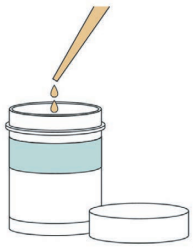
容器の取り扱い方法

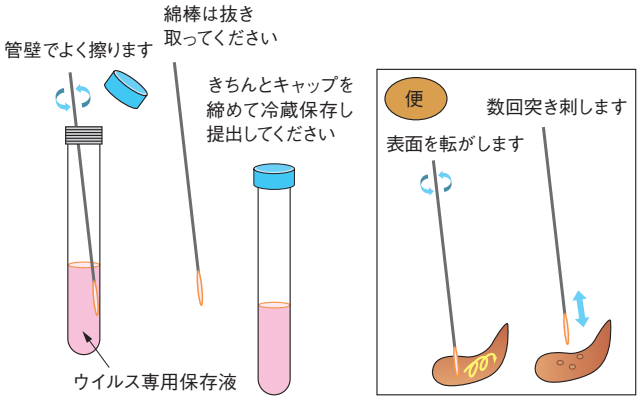
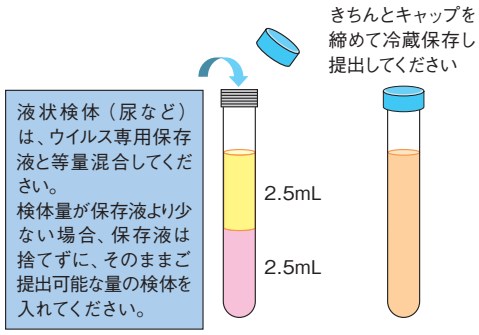
容器形態	容器形態
U20 旧容器記号 Y0 尿用容器 貯蔵方法　室温 プレグナンジオール、プレグナントリオール	**U40** 旧容器記号 Y4 尿中一般、尿沈渣用スピッツ 貯蔵方法　室温

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
U50 旧容器記号 Y5 	保存剤入り (容器容量10mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	尿中ミオグロビン 〔CLEIA〕	部分尿 6		冷蔵	採取した尿を速やかに専用容器(U50)のラベルに印刷してある線まで入れ、よく混和させ冷蔵保存にてご提出ください。 凍結保存は避けてください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
U70 旧容器記号 Y7 	Tris+Hcl入り (容器容量10mL) 内　容 1.5M Tris-Hcl 0.5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	尿中Ⅳ型コラーゲン	部分尿 5		冷蔵	早朝一番尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
U90 旧容器記号 b2 	抗プラスミン剤入り 内　容 アプロチニン 精製ゼラチン デヒドロ酢酸 ナトリウム 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年 (アルミ包装 開封後1週間)	FDP定量	部分尿 (新鮮尿) 2	部分尿 (上清) 0.5	凍結	新鮮尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和後、3000rpm5～10分間遠心分離してください。 上清(部分尿)は必ず凍結保存してください。

容器形態	検査項目	保存	採取方法	
UV6 旧容器記号 f3 内　　容　メタノール55% 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年6ヵ月	細胞診（尿LBC）	室温		採取した適量の尿を、1500rpm 5分間遠心してください。
				上清を捨て、沈渣をよく混和させてください。
				沈渣をスポイトで専用容器に滴下し、しっかり蓋を閉めてご提出ください。 （沈渣が少ない場合は、専用容器の内容液をスピッツに入れ、再び専用容器に移してください。）

容器形態	検査項目	保存	検体の取り扱い方法
V10 旧容器記号 V ウイルス専用 保存液入り 貯蔵方法　冷蔵 有効期間　製造から 6ヵ月	ウイルス分離	冷蔵	**●患部ぬぐい液・水疱内容・糞便　など** 滅菌綿棒でぬぐい、下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存してください。 
	ウイルス同定		**●尿・髄液・胸水・鼻汁　など** 下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存してください。  **●組織** 組織小片（5mm角程度）をウイルス専用保存液に入れ、冷蔵保存してください。

容器形態	検　査　項　目	保存
V30 旧容器記号 W1	**単純ヘルペスウイルス特異抗原** **水痘・帯状疱疹ウイルス抗原**	凍結

●検体の採取方法

病巣基底細胞が多数得られるように採取してください。
早期の水疱病巣が検体として最適です。水疱内容液および膿は、検体として不適当です。

①滅菌針を用いて、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。(図1)
②病巣を覆っていた上部の皮を、ピンセット等で除去します。(図2)
③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。
④ウイルス感染細胞は、病巣基底部にありますので、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。(図3)

●注意

膿がでている場合には綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取してください。この時、病巣基底部をかき乱さないよう注意してください。

●操 作 法

●検体の塗抹

①綿棒を回転させながらスライドグラスの2個の円内に塗りつけます。このとき綿棒は、スライドグラスに平行にして、全表面が触れるように塗抹します。不均一にならないように注意してください。(図4)
②綿棒をすてる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていれば不透明に見えます。透明に見える部分があれば、そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。
③そのまま風乾します。
④乾燥したスライドグラス上に充分な量(検体にゆきわたる)のアセトンを添加し、蒸発させます。
・検体はスライドグラス2枚をご提出ください。

●検体の保存

乾燥後のスライドグラスは、塗抹面を下にし、オブジェクトケースに入れ、検査項目名、病院名、氏名等を記入後、凍結保存してください。

図1

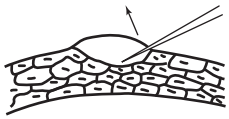


図2

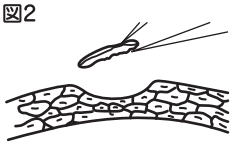
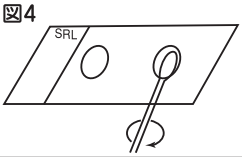


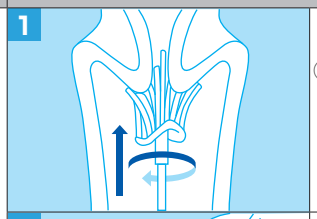
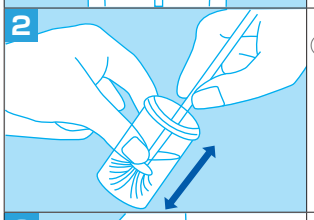
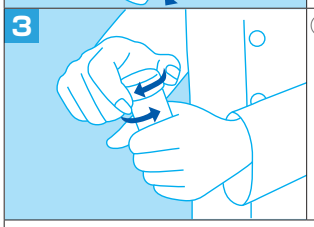
図3

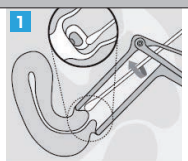
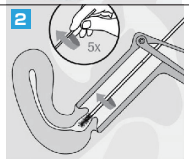
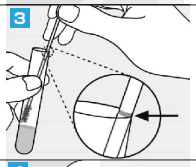
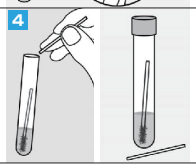
図4



貯蔵方法　室温
有効期間
製造から 1年

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	保存	採取方法
V41 旧容器記号 f6 内　容 メタノール55% 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年6ヵ月	ヒトパピローマウイルスDNA（16型、18型、その他ハイリスクグループ）	室温	1  ①子宮頸部の細胞を採取する 綿棒以外の採取器具（ブラシ、スパーテル）を用いて細胞を採取してください。
	ヒトパピローマウイルスDNA（ハイリスクグループ）（LBC）		2  ②細胞を洗い落とす 採取器具を容器に入れ、容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後、強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。
	ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定		3  ③しっかりフタを閉める 採取器具を取り出し、蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように、しっかり蓋を閉め、保存してください。 （注）採取器具の先端は容器に残さないでください。
	細胞診（婦人科LBCベセスダシステム）		［ご注意］ 妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ、スパーテル等の採取器具の使用は避け、綿棒を使用してください。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採取前に別の綿棒で粘液を除去し、採取に使用した綿棒を保存液中で充分にすすぎ、採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないでください。また、綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので充分にご注意ください。
	細胞診（婦人科LBC）		

容器形態	検査項目	保存	採取方法	
V50 旧容器記号 F3 内　容　グアニジン塩酸塩 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年	クラミジア トラコマティス DNA	室温		スワブ検体採取セット附属のドライスワブで子宮頸管とその周辺部の過剰な粘液を充分拭い取ります。このスワブは廃棄します。
	淋菌DNA			附属のフロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向に５回そっとスワブを回し、膣の粘液に触れないように注意してスワブを引き抜きます。
	淋菌およびクラミジア トラコマチスDNA 同時同定			専用容器のキャップを開け、採取したフロックスワブの先端が容器内の溶液に浸からないように注意しながら入れ、柄につけられた線を容器の縁に合わせます。
	膣トリコモナスおよび マイコプラズマ ジェニタリウム同時核酸検出			専用容器の縁を利用してフロックスワブの柄につけられた線で折り入れ、手元に残った折られた柄は廃棄します。専用容器のキャップをしっかり閉め、室温保存で提出してください。

容　器　形　態

V60
旧容器記号
W3

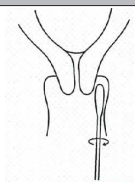
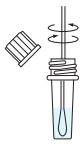
内　容　保存液
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 3年

一般用

妊婦用

ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ、ローリスクグループ)
[ご注意]検体採取時に無理な力がかかりますと、綿棒が折れる可能性がありますので、充分ご注意ください。

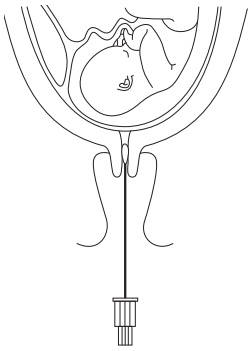
容　器　形　態	容　器　形　態
VP0　病理専用容器 旧容器記号 u5 10～20%ホルマリン液を充填してお使いください。 貯蔵方法　室温	**VP1**　凍結組織材料作製セット 旧容器記号 u1 貯蔵方法　室温 有効期間　製造から 1年

容器形態	検査項目	保存	採　取　方　法	
VP5 旧容器記号 W5 内　　容　抽出液 貯蔵方法　室温 有効期間 製造から 1年	ヒト癌胎児性 フィブロネクチン	凍結		専用綿棒を後腟円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。 ※腟表面を強くこすらないでください。 ※粘液は混入させないでください。
				検体抽出容器の紫色キャップをはずし、分泌液を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際、容器から液がこぼれないよう注意してください。)
				綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。
				検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。
				検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。
			●注意事項 ・検体の採取は腟洗浄前に行ってください。 ・検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。 ・検体中に0.1％以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。 ・検体は後腟円蓋から採取してください。 ・腟表面を強くこすらないように注意してください。	

容器形態	検査項目	保存
VP6 旧容器記号 W6	子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ	凍結

採取方法

正しい採取部位

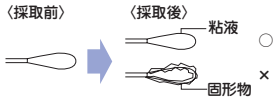


子宮腟部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。

綿球を子宮頸管内腔に挿入します。注3)

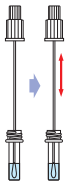
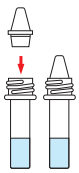
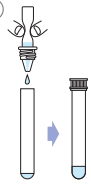
綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液を採取します。注4)

●注意事項
1)子宮頸管部より採取してください。
2)検体採取は腟部洗浄前に行ってください。
3)綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。
4)綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液を浸み込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には、接子等で取り除いてください。



5)採取した検体は15分以内に抽出作業を行ってください。
[ご注意]
検体採取時に無理な力が掛かりますと、綿棒が折れる可能性がありますので充分ご注意ください。

抽出方法

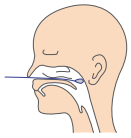
①	抽出液の入った抽出容器の青色キャップをはずします。	② 	頸管粘液を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。 その後、綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。	③	綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。
④ 	フィルターをセットします。	⑤ 	検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴(約300μL)を分取します。 必要量が得られない場合は検体採取からやり直してください。 検体保存容器に白色キャップをして保存します。冷蔵(8℃)で3日以内、凍結(−15℃以下)で3ヵ月以内に測定してください。		

内　容
抽出液
(リン酸バッファー)
貯蔵方法　室温
(抽出液は冷蔵)
有効期間
製造から 1年

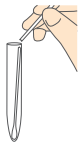
容器形態	検査項目	保存
VS4 旧容器記号 k9	百日咳菌DNA	凍結

採取方法

1.綿球部分に触れないように、スワブの軸部分をつまんで取り出します。



2.被験者の頭を動かさないようによく押さえ、その後、スワブを後鼻腔に静かに挿入して粘液を採取します。



3.速やかにスワブを滅菌ポリスピッツ(ARR)の中に入れ、スワブの柄にあるスリットを容器の縁にあてて折ります。

4.スワブを入れたまま容器のキャップをしっかり閉め、凍結保存にて提出してください。

貯蔵方法　室温
有効期間
製造から 5年

容器の取り扱い方法

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
X00 旧容器記号 ℓ 	滅菌喀痰採取容器 貯蔵方法 室温	結核菌群核酸同定〔TRC〕	喀痰 各2.0		冷蔵	本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		MAC核酸同定〔TRC〕				
		ニューモシスチスカリニ(P.jirovecii)DNA			凍結	他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
		マイコプラズマニューモニエDNA				
		レジオネラDNA定性	喀痰 1.0			

容器形態

X10
旧容器記号
f

細胞診（喀痰集細胞法）
内　　容　サコマノ氏液、粘液融解剤
貯蔵方法　室温（冷暗所）
有効期間　製造から 1年

容器形態

X90
旧容器記号
L7

核酸保存容器「GM管」
内　　容　核酸庇護剤
貯蔵方法　室温
有効期間　製造から 1年

肺がんコンパクトパネル CDx、肺がんコンパクトパネル 研究用

容　器　形　態
XC0 旧容器記号 L2　貯蔵方法　室温

結石専用容器

容　器　形　態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
XR4 旧容器記号 L4	貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 4年	コクリン-トモプロテイン（CTP）	中耳洗浄液 0.3		凍結	左図の容器に採取し、必ず凍結保存してください。

容　器　形　態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
XR5 旧容器記号 L6	CSF容器 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 3年	β-アミロイド 1-42/1-40比	髄液 各2.5		冷蔵	左図の容器に採取し、必ず冷蔵保存してください。髄液採取時、最初の1～2mLは使用しないでください。必ず指定容器（XR5）に所定の量（2.5mL）を直接採取し、ご提出ください。容器の移し替えや量不足により、データ低下の恐れがあります。血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
		リン酸化タウ			冷蔵	左図の容器に採取し、必ず冷蔵保存してください。髄液採取時、最初の1～2mLは使用しないでください。必ず指定容器（XR5）に所定の量（2.5mL）を直接採取し、ご提出ください。容器の移し替えや量不足でのご提出は避けてください。血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。
		タウ蛋白			凍結	左図の容器に採取し、直ちに凍結し、コンテナ容器セット（Z50）に入れ、必ず凍結保存してください。
		総タウ蛋白（AD）			冷蔵	左図の容器に採取し、必ず冷蔵保存してください。髄液採取時、最初の1～2mLは使用しないでください。必ず指定容器（XR5）に所定の量（2.5mL）を直接採取し、ご提出ください。容器の移し替えや量不足でのご提出は避けてください。血液の混入により検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。

容器形態		検査項目	採取量(mL)	提出量(mL)	保存	検体の取り扱い方法
Z10 旧容器記号 t	[オブジェクトケース] プレパラート (スライドグラス) 貯蔵方法 室温	鼻汁好酸球	鼻汁塗抹標本 2～3枚		室温	標本は新鮮鼻汁で作製しご提出ください。室温保存してください。
		c-kit遺伝子 変異解析(GIST)	未染標本スライド ・腫瘍部位確認用 切片の厚さ 3.4μm:2枚 ・DNA抽出用 切片の厚さ 10μm:5～10枚			未染標本スライドを作製し、スライドのおもてに切片の厚さを記入し、左図のオブジェクトケースに入れ、室温保存にてご提出ください。ご依頼の際は、必ず「腫瘍部位確認用検査(項目コードNo.：0A910 0)」を併せてご依頼くださいますようお願いいたします。
		一般細胞診 (喀痰)	塗抹標本 (湿固定2枚)			塗抹標本を作製し、左図のオブジェクトケースに入れ、室温保存にてご提出ください。
		一般細胞診 (喀痰以外)	塗抹標本 (湿固定1枚、乾燥固定1枚)			
		細胞診(婦人科 ベセスダシステム)	塗抹標本 各(湿固定1枚)			
		細胞診(婦人科)				
		染色標本作製	未染標本スライド 各2枚			塗抹標本を作製し、左図のオブジェクトケースに入れ、室温保存にてご提出ください。
		CD30(IHC)				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、組織は3～4μmの厚さに薄切し、スライドグラス端から50mm以内に貼り付けてください。
		悪性リンパ腫ALK タンパク(IHC)				
		エストロゲン レセプター(IHC)	未染標本スライド 各4枚			シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		プロゲステロン レセプター(IHC)				
		エストロゲンレセプター/プロゲステロンレセプター(IHC)	未染標本スライド 6枚			
		乳癌HER2タンパク(IHC)4B5	未染標本スライド 各4枚			シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、速やかにご提出ください。高温での乾燥は、60℃で30分以内の処理を推奨します。長時間、高温に置くことは避けてください。脱灰処理を行った検体については、正しい結果が得られないため、ご依頼いただけません。固定時間は10%中性緩衝ホルマリンで6～72時間以内(生検標本の場合は検体の大きさに準ずる。)が望ましいとされています。組織は4μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		乳癌HER2/neu タンパク(染色法)				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		乳癌HER2遺伝子 (FISH)				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4～6μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		乳癌 PD-L1タンパク (IHC)22C3				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4～5μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		乳癌 PD-L1タンパク (IHC)SP142				

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
Z10 旧容器記号 t 	[オブジェクトケース] プレパラート （スライドグラス） 貯蔵方法 室温	胃癌HER2遺伝子 （FISH）	未染標本スライド 各4枚		室温	シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、速やかにご提出ください。組織剥離防止の為にベーキングさせる場合でも、なるべく短時間で（1時間以内）処理を行い、スライドグラスをそれ以上の時間、高温に置くことは避けてください。なお胃がんHER2検査病理部会作成の検査ガイドは10％中性緩衝ホルマリンで6～72時間以内（生検標本の場合は検体の大きさに準ずる。但し、固定時間は6時間以上）固定した材料が望ましいとされています。組織を4～6μmの厚さに薄切してください。
		胃癌HER2タンパク （IHC）				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、速やかにご提出ください。組織剥離防止の為にベーキングさせる場合でも、なるべく短時間で（1時間以内）処理を行い、スライドグラスをそれ以上の時間、高温に置くことは避けてください。なお胃がんHER2検査病理部会作成の検査ガイドは10％中性緩衝ホルマリンで6～72時間以内（生検標本の場合は検体の大きさに準ずる。但し、固定時間は6時間以上）固定した材料が望ましいとされています。組織を3～4μmの厚さに薄切してください。
		CLDN18タンパク （IHC）				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4～5μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		胃癌PD-L1タンパク （IHC）22C3				
		胃癌PD-L1タンパク （IHC）28-8				
		大腸癌HER2遺伝子 （FISH）				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、速やかにご提出ください。 組織剥離防止の為にベーキングさせる場合でも、なるべく短時間で（1時間以内）処理を行い、スライドグラスをそれ以上の時間、高温に置くことは避けてください。 固定時間は10％中性緩衝ホルマリンで6～72時間以内（生検標本の場合は検体の大きさに準ずる。但し、固定時間は6時間以上）固定した材料が望ましいとされています。組織を4～6μmの厚さに薄切してください。
		大腸癌HER2タンパク （IHC）				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、速やかにご提出ください。 組織剥離防止の為にベーキングさせる場合でも、なるべく短時間で（1時間以内）処理を行い、スライドグラスをそれ以上の時間、高温に置くことは避けてください。 固定時間は10％中性緩衝ホルマリンで6～72時間以内（生検標本の場合は検体の大きさに準ずる。但し、固定時間は6時間以上）固定した材料が望ましいとされています。組織を3～4μmの厚さに薄切してください。

容器形態		検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
Z10 旧容器記号 t 	[オブジェクトケース] プレパラート （スライドグラス） 貯蔵方法 室温	食道癌PD-L1タンパク(IHC)22C3	未染標本スライド各4枚		室温	シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4～5μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		食道癌PD-L1タンパク(IHC)28-8				
		子宮頸癌PD-L1タンパク(IHC)22C3				
		MMRタンパク(IHC)	未染標本スライド各9枚			シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		MMRタンパク(IHC)(リンチ症候群)				
		BRAF V600Eタンパク(IHC)	未染標本スライド各4枚			
		肺癌PD-L1タンパク(IHC)22C3				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4～5μmの厚さに薄切し、フロスト端から15mm以上、スライドグラス端から15mm以上離してなるべく中央に貼り付けてください。
		肺癌PD-L1タンパク(IHC)28-8				
		肺癌PD-L1タンパク(IHC)SP142				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4～5μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		肺癌PD-L1タンパク(IHC)SP263				
		肺癌ALKタンパク(IHC)D5F3				Poly-L-lysineまたはシラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、組織切片を4μmの厚さに薄切し、なるべくスライド中央に貼り付け、37℃で24時間乾燥させた後、ご提出ください。
		メラノーマPD-L1タンパク(IHC)28-8				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4～5μmの厚さに薄切し、フロスト端から15mm以上、スライドグラス端から15mm以上離してなるべく中央に貼り付けてください。
		頭頸部癌PD-L1タンパク(IHC)22C3				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4～5μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
		頭頸部癌PD-L1タンパク(IHC)28-8				シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は4～5μmの厚さに薄切し、フロスト端から15mm以上、スライドグラス端から15mm以上離してなるべく中央に貼り付けてください。
		CCR4タンパク(IHC)	未染標本スライド6枚			材料は組織を10～20%ホルマリン固定液に24～48時間程度の固定をし、包埋したパラフィンブロックから作製された未染標本スライドとなります。標本は3～4μmの厚さに薄切し、シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。
		FGFR2融合遺伝子(FISH)	未染標本スライド3枚			シラン等のコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。組織は3～5μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。

遺伝子関連検査の未染標本スライド提出に際しての留意事項

容器形態		検査項目	未染標本スライド（枚）	厚さ（μm）	検査に必要な腫瘍細胞割合	保存
Z10 旧容器記号 t	[オブジェクトケース] プレパラート （スライドグラス） 貯蔵方法 室温	EZH2遺伝子変異解析	5	5	15%以上	室温
		BRAF V600 変異解析〔PCR〕	5～10	10	50%以上	
		BRAF V600E遺伝子解析〔rSSO〕	5	5～10	10%以上	
		EGFR変異解析 v2.0	5～10	10	10%以上	
		KRAS G12C変異解析	5	5	20%以上	
		IDH1/2遺伝子解析(グリオーマ)(FFPE)	5～10	4～10	20%以上	
		RAS・BRAF遺伝子変異解析	5	5～10	10%以上	
		マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(FFPE)	5～10	5	50%以上	
		肺癌オンコマインDxTTマルチ7遺伝子CDx FFPE	5～10	5	30%以上	
		甲状腺癌オンコマインDxTTマルチ2遺伝子CDx FFPE	5～10	5	30%以上	
		肺癌オンコマインDxTTマルチ7遺伝子CDx(46)FFPE	5～10	5	30%以上	
		甲状腺癌オンコマインDxTTマルチ2遺伝子CDx(46)FFPE	5～10	5	30%以上	
		AmoyDx肺癌マルチパネル7遺伝子 IVD 検体保存期間：(3ヵ月以下、3～12ヵ月、12～24ヵ月)	各7～10	各5	20%以上 (推奨30%以上)	
		AmoyDx肺癌マルチパネル7遺伝子 研究用 検体保存期間：(3ヵ月以下、3～12ヵ月、12～24ヵ月)	各7～10	各5	20%以上 (推奨30%以上)	

採取方法

●提出条件
未染標本スライドは、病理組織学的な評価がなされ、検査に必要な腫瘍細胞割合（標本中の全細胞に占める腫瘍細胞の％）以上存在することを確認してください。必要な割合に満たない場合には、未染標本スライドの裏面から腫瘍細胞領域をマーキングしてください。 マーキングがされないまま提出されますと、マクロダイセクションができず、偽陰性など判定結果に影響を及ぼす可能性がありますので、あらかじめご了承願います。
なお、**マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(FFPE)、マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(リンチ症候群)の２項目においては、検査の特性上、腫瘍部と正常部を区分する必要性があります**ので、必ず腫瘍細胞領域のマーキングをお願いします。
ただし、FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル、myChoice診断システムは対象外です。

●未染標本スライドについて
採取された組織は速やかに10%中性緩衝ホルマリン溶液に浸漬し、固定を行ってください（推奨固定時間は6～48時間、myChoice診断システムは6～72時間、生検材料は3～6時間程度）。ご提出の際には、可能な限り3年以内に作製したホルマリン固定パラフィン包埋(FFPE)ブロックより、指定の厚さにて連続切片を作製してください。ただし、AmoyDx肺癌マルチパネル7遺伝子はそれぞれ各項目に準じた3ヵ月以内、3～12ヵ月以内、12～24ヵ月以内に作製したFFPE組織にてご提出ください。なお、薄切時には検体ごとにミクロトーム刃を交換するなど、コンタミネーションに充分ご注意ください。
また、組織のホルマリン固定により核酸が断片化されているため、固定液の種類や組成、固定時間、固定後の検体の保存状態によっては、解析不可能となることがありますので、あらかじめご了承ください。

●生検標本について
生検標本は検体が微量であることが多く、組織自体がほとんど消失している場合や、腫瘍細胞が含まれていない組織片になっている可能性がありますので、あらかじめご注意願います。

遺伝子関連検査の未染標本スライド提出に際しての留意事項

容器形態		検査項目	未染標本スライド（枚）	厚さ（μm）	検査に必要な腫瘍細胞割合	保存
Z10 旧容器記号 t 	[オブジェクトケース] プレパラート （スライドグラス） 貯蔵方法 室温	肺がんコンパクトパネル（7遺伝子）CDx	5～10	5	5%以上	室温
		肺がんコンパクトパネル（7遺伝子）研究用	5～10	5	5%以上	室温
		NCC オンコパネルシステム	5	10	20%以上	冷蔵
		FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル	10	4～5	30%以上	室温
		myChoice診断システム	8	5	20%以上	室温
		マイクロサテライト不安定性(MSI)検査 （リンチ症候群）	5～10	5	50%以上	室温

採取方法

●提出条件
未染標本スライドは、病理組織学的な評価がなされ、検査に必要な腫瘍細胞割合（標本中の全細胞に占める腫瘍細胞の％）以上存在することを確認してください。必要な割合に満たない場合には、未染標本スライドの裏面から腫瘍細胞領域をマーキングしてください。 マーキングがされないまま提出されますと、マクロダイセクションができず、偽陰性など判定結果に影響を及ぼす可能性がありますので、あらかじめご了承願います。
なお、**マイクロサテライト不安定性(MSI)検査（FFPE）、マイクロサテライト不安定性(MSI)検査（リンチ症候群）の２項目においては、検査の特性上、腫瘍部と正常部を区分する必要性がありますので**、必ず腫瘍細胞領域のマーキングをお願いします。
ただし、FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル、myChoice診断システムは対象外です。

●未染標本スライドについて
採取された組織は速やかに10%中性緩衝ホルマリン溶液に浸漬し、固定を行ってください（推奨固定時間は6～48時間、myChoice診断システムは6 ～ 72時間、生検材料は3～6時間程度）。ご提出の際には、可能な限り3年以内に作製したホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）ブロックより、指定の厚さにて連続切片を作製してください。ただし、AmoyDx肺癌マルチパネル7遺伝子はそれぞれ各項目に準じた3ヵ月以内、3～12ヵ月以内、12～24ヵ月以内に作製したFFPE組織にてご提出ください。なお、薄切時には検体ごとにミクロトーム刃を交換するなど、コンタミネーションに充分ご注意ください。
また、組織のホルマリン固定により核酸が断片化されているため、固定液の種類や組成、固定時間、固定後の検体の保存状態によっては、解析不可能となることがありますので、あらかじめご了承ください。

●生検標本について
生検標本は検体が微量であることが多く、組織自体がほとんど消失している場合や、腫瘍細胞が含まれていない組織片になっている可能性がありますので、あらかじめご注意願います。

容器形態	検査項目	採取量（mL）	提出量（mL）	保存	検体の取り扱い方法
Z15 旧容器記号 t5 OncotypeDX Kit Box 貯蔵方法　室温	オンコタイプDX 乳がん再発 スコアプログラム	未染標本スライド 15枚		室温	①最も代表的な腫瘍ブロックを選出ください。 ②厚さ5μmのRNA抽出用の組織切片を15枚薄切ください。 ③組織切片は、拾いの際に向きを統一ください。 ④拾った後、切片は自然乾燥させ、パラフィン溶融は避けてください。 ⑤スライドにご施設での検体管理番号(任意の英数字)を必ずご記入ください。 ※検体管理番号はご施設で付番ください。スライドには同一の検体管理番号をご記入ください。 ⑥薄切した順番に従い、スライドに1～15のシーケンス番号を必ずご記入ください。 ⑦OncotypeDX Kit Boxに添付されているバーコードを各スライドに貼付ください。 ※標本作製にあたっては、コンタミネーションを避けるため、以下にご注意ください。 ・症例ごとにミクロトームの刃の新しい部位(または新しい刃)を使用してください。 ・切片の拾いの際は、清潔な水をご使用ください。 ・薄切の際は、素手での操作は避け、使い捨ての手袋等をご使用ください。

容器形態	
Z50 旧容器記号 L5	貯蔵方法　室温 コンテナ容器セット

容器形態	
Z90 旧容器記号 t7	Blood Collection Kit 貯蔵方法　室温 Guardant360 CDxがん遺伝子パネル

新規検査項目記入欄

	項目コード	検査項目 JLAC10	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	備　考